

6月21日のウクライナ情報

安齋育郎

●ウクライナの生物学研究所で鳥インフルエンザ・ウィルを発見(2023年6月19日)

ロシア軍がウクライナの生物学研究所で、鳥インフルエンザ H5N8 株を発見、ヒトに感染すると致死率 40%に達する可能性があるとのこと。この研究の依頼者は米国防総省です。

フル動画

ロシア国防省 ウクライナの生物学研究所に関する資料の分析結果 2023/05/26

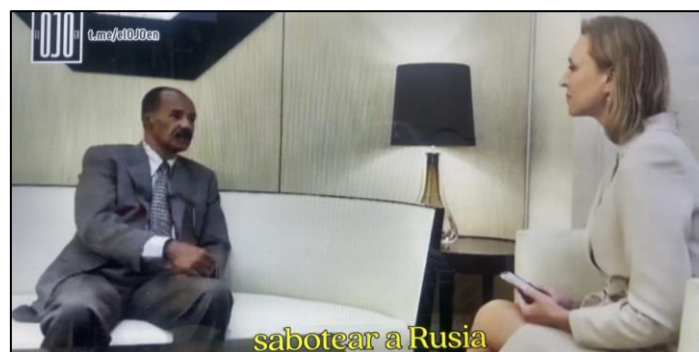
<https://twitter.com/i/status/1670603384221577218>



●イサイアス・アフェウェルキ大統領(エリトリア)の話(2023年6月19日)

今日、人は皆ウクライナとロシアについて話している。だが、ウクライナとかロシアの話では全くない。30年前にロシアに宣戦布告した、ワシントンに率いられた NATO の話だ。彼らはロシアを競争相手で見なしている。

それで、ロシアを抑え込まなければならない、弱体化しなければならない、あらゆる場所でロシアとロシアの発展を妨害しなければならないと考えている。



●ロシアがウクライナに勝利することは NATO の存在を脅かす = 英メディア(2023年6月19日)

英誌テレグラフ解説委員のリチャード・ケンプ氏は、ロシアが、西側諸国の支援を受けているウクライナとの紛争で勝利することは、NATO の存在自体を脅かすものであると記事の中で書いている。

ケンプ氏によると、この紛争で勝利するチャンスはウクライナ優勢ではない。ロシア側は軍人の数、

戦車や大砲、空軍の規模など、多くの点で優位に立っている。ケンプ氏は「とても、ウクライナの勝利を保証できるような状態ではない」と強調した。

また、ケンプ氏はロシアが勝利した場合の NATO の存在に疑問を呈した。

「西側諸国のリーダー達は、ヴィリニウスサミット(編集注:7月11日から12日にかけてリトアニアのヴィリニウスで行われる NATO 首脳会合)で自問自答しなければならない。北大西洋同盟の力を背景にしたウクライナがロシアに立ち向かえないなら、NATO の存在意義は何なのか」

また、ケンプ氏は、フランスのマクロン大統領とドイツのショルツ首相が、年内に和平交渉を行わねばならない、とウクライナを説得する試みを再開することも認めている。しかし、そのような行動は、米国のバイデン大統領の議会における立場を損なうことになる。共和党はこの状況を利用して、ウクライナへの軍事面での供給を減らすよう求めるかもしれない。



●ウクライナのサイバーセキュリティ強化に英国が 3200 万ドルを充当へ(2023 年 6 月 19 日)

英国のスナク首相は、17 日土曜日の夕方に発表した声明の中で、英国政府は、ウクライナのサイバーセキュリティ強化のため、今後 2 年間で最大 2500 万ポンド(約 32 億円)を拠出する、と明らかにした。

発表された文書によると、この資金によってウクライナがロシアからの脅威を検知、防止し、重要な国家インフラと重要なサービスを保護できるまでに、ウクライナのサイバー防御能力を高めることが可能になると書かれている。

この文書中でスナク氏が言及しているのは、ロシアは銀行業務から電力供給まで国民生活に重要な機能を果たすウクライナのサイバーインフラを攻撃しようとしている、ということだ。追加の資金充当をすることは、ウクライナのサイバー防衛を強化するにあたって非常に重要である、と文書では触れられている。

昨年、英国当局は「ウクライナ・サイバープログラム」の立ち上げを発表し、その実施に 635 万ポンド(814 万ドル)を割り当てた。第 2 段階の資金調達では、英国が 1600 万ポンド、ウクライナを支援する他の西側諸国が 900 万ポンドを割り当てることを想定している。



●ロシアの大富豪アブラモビッチ氏「チェルシー」売却金のウクライナへの送金を承認せず＝メディア(2023年6月18日)

ロシアの大富豪で、英国のサッカークラブ「チェルシー」の元オーナー、ロマン・アブラモビッチ氏が、クラブの売却で得た 23 億ポンドをウクライナに分配する合意書にサインすることを拒否した。デイリー・メール紙は、アブラモビッチ氏は、この資金をウクライナとロシアの間で分配することを望んでいる、と報じている。

同紙によると、昨年のチェルシー売却後に英国政府が凍結した 23 億ポンドをウクライナに送るためには、アブラモビッチ氏の署名が必要だという。

アブラモビッチ氏がサインしないのは、その資金をウクライナとロシアの間で分配することを望んでいるからだという。特に、その金額の一部は、紛争の影響を受けているロシア人にいくべきだというのだ。

英国外務省の情報筋は、この情報の信憑性を確認した。また情報筋は英国のクレバリー外相が先週述べた、我々はこの資金が確実にウクライナに渡ることを確認したいし、そのことに確証を持ちたいという発言を引き合いに出している。

この騒動に近い関係者によると、元々は、昨年の夏か今年の 1 月に資金がウクライナに送金されることを望んでいた。しかし今は、年末、冬が来る前にウクライナへの送金は始まることを期待しているようだが、現段階ではその保証は全くない。

昨年、アブラモビッチ氏は英国の制裁により、サッカークラブ「チェルシー」の売却を余儀なくされた。新オーナーは米国の大富豪トッド・ボーリー氏で、25 億ポンドを支払ってクラブを手に入れた。取引にかかった費用を差し引いても、23 億ポンドが残った。売却の際、アブラモビッチ氏の広報担当者は、「アブラモビッチ氏は収益を、この紛争の両側、ロシアとウクライナ双方の被害者のケアをする慈善団体に寄付してほしがっている」と述べていた。



●ロシア宇宙軍の新レーダーステーションは 10 センチの物体でさえも検出・制御可能＝ロシア国防省(2023年6月19日)

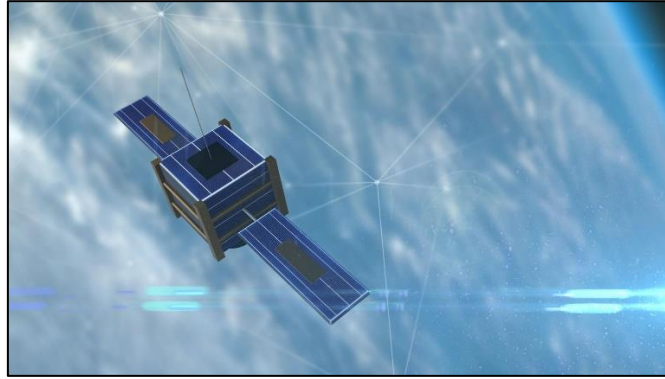
ロシア国防省は、小型衛星探知のために運用を開始した新しいレーダーステーションが、10 センチあまりの物体でさえもコントロールできることを発表した。

ロシア宇宙軍のアレクサンダー・ゴロフコ司令官がセルゲイ・ショイグ国防相に報告したところによると、この新しいレーダーステーションは従来の 4 倍の小型衛星をコントロールすることができる。また、コントロール可能な宇宙物体のサイズは最小 10 センチにまで縮小された。小型衛星の検出に要する時間も従来の半分になった。しかも、これだけではない。国防相が受けた説明によると、2027 年ま

で、管理することができる地球付近の宇宙域の増加に伴って、打ち上げ後または小型衛星起動後に衛星を検出する時間が4分の1にまで削減され、外国の衛星が向かう先を特定する時間は半減するということだ。

レーダーステーションの任務は、潜在的な敵国の軍事空間システムの偵察、宇宙での、または宇宙からの軍事行動の検出などである。宇宙衛星が常に近代化されているように、宇宙空間を管制、コントロールするシステムの技術的な特性も常に改善が進んでいるのである。

これより前、スプートニクは、日本は米国とともに、他国の管理や情報通信に干渉する能力を含む、宇宙における独自ルールを確立する権利があると考えているとお伝えした。



●「私はカモメ」 宇宙へ初めて行った女性 テレシコワの挑戦から 60 年(2023 年 6 月 16日)

今から 60 年前の 1963 年 6 月 16 日、ソ連のバイコヌール宇宙基地から宇宙船「ボストーク 6 号」が打ち上げられた。搭乗したワレンチナ・テレシコワは、人類史上初の宇宙に行った女性となった。「私はカモメ。聞こえますか？どうぞ」。これは打ち上げ後、彼女が最初に地上との通信で発したフレーズである。

26 歳だったテレシコワは、2 日と 22 時間 51 分の間、未知の宇宙と 1 対 1 で対面した。それ以降も現在に至るまで、女性が単独宇宙飛行をした例はない。他の女性の宇宙飛行士は、複数の乗組員の 1 人として宇宙に飛び立っている。

テレシコワの飛行より前、地球の軌道上に行ったのは男性だけだった。そのため、ロシアの「カモメ」の宇宙飛行は、「女性と宇宙」の問題が存在しないことの証明となった。テレシコワの宇宙飛行の 2 日前、別の宇宙飛行士、ワレリー・バイコフスキーが乗った「ボストーク 5 号」も打ち上げられていた。2 人は地上と交え互いに無線交信し、自身の活動を調整したり、観測結果を比較したりした。また、無重力空間が人体に与える影響には、男性と女性で大差がないことも分かった。

テレシコワを乗せた宇宙船は地球の周りを 48 周した。「ボストーク 6 号」の帰還船は、無事にアルタイ地方(ロシア)の湖に着水した。

宇宙飛行から 40 年以上経ってから、テレシコワはロシア初の女性空軍少将となっている。彼女は地球に戻れない可能性もあったと当時を振り返っている。大気圏再突入は手動操作で行うはずだったが、船に「降下」のコマンドを出しても、反対に上昇を続け地球からどんどん離れていった。テレシコワは手動操作に不具合が起こったことを即座に理解し、地球と交信して自動での着陸を要請した。弱冠 26 歳のテレシコワの勇敢さ、決定力、そして専門性の高い知識が彼女の命を救い、宇宙の征服者の輝かしい歴史の 1 ページに載ることになったのだ。



※“ヤー・チャイカ”(私はカモメ)はゆうめいなことばになたっけ。

●【視点】アジア太平洋地域での米国の存在が強まる中、フィリピンとの軍事外交を活発化する日本(2023年6月15日)

地域における中国の台頭を念頭に、6月16日、日本では、日本、米国、フィリピンの3カ国による初の安全保障問題会議が実施される。米国とフィリピン間の軍事協力の拡大を定めたEDCA(防衛協力強化協定)は、米国がフィリピンに長期的に軍部隊を配備することを可能とするものであるが、最近、米国はあからさまな中国との対立にフィリピンを積極的に引き込もうとしている。そこで、現在、この米・日・比の3カ国による対話形式の創設を発案しているのは日本となっている。こうした外交戦略の理由は何なのか、とりわけ、米国はアジア太平洋地域のパワーバランスのコンセプトを崩すために日本にどのような役割を求めているのだろうか?「スプートニク」が専門家にお話を伺った。

政治学者で東洋学者のワシリー・カシン氏は、その動機は明らかで、日本はときに米国よりはるかに実りある成果を手に行っているからだと指摘する。

「日本のイニシアチブに対する地域各国の反応は、米国に対するものよりも拒否感が低いのです。そこで日本は、アジア諸国を加えた多国間体制の構築により積極的かつ独立した役割を果たしています。フィリピンは日本にとって、防衛装備品の輸出においてもっとも成功している国の一つです。日本はすでにフィリピンに6基の警戒管制レーダー6基を輸出しています。また、フィリピンは南シナ海周辺で戦略的な地位を占めています。さらに、フィリピンは、この地域における中国抑止のために米国と大々的な協力を行う用意を示している唯一の国です。たとえば、ベトナムでは、この地域での外国軍部隊の配備に対する制限が法で定められています。加えて、米国とベトナムの間で信頼関係が築かれたことはかつて一度もありません。それに対し、フィリピンは米国との協力を大々的に拡大する用意があるのです」

カシン氏は続けて、フィリピンは大きな国であり、米国はアジアへの軍部隊の配備に問題を抱えている点を指摘する。

「日本と韓国は米国にとって歴史ある信頼のおけるパートナー国ですが、韓国の米軍は主に北朝鮮を対象としています。一方、日本について言えば、米国が新たな軍備を配備するための許可を得るのが難しいことがあります。加えて、日本は南シナ海からはかなり離れた場所にあり、アメリカのグアムはそれほど大きくもないのです。一方、フィリピンの国土は、対中国を目的とした米軍の配備や機動にかなり適しているのです」

とはいえ、日本の役割はやはり大きな意味を持っているとカシン氏は指摘する。なぜなら米国は今、資源がかなり制限された状況にあるからだ。

「ウクライナにおける特別軍事作戦が始まってから、この制限はより厳しいものになっています。というのも、米軍はヨーロッパに 10 万人規模の部隊を置き、同時にウクライナを支援するため、年間数百億ドルを消費する必要に迫られているのです。同時に、中国が急ピッチで軍事力を増強する中、米国は別の方面でも緊張を感じています。そうした理由から、米政府は現在、日本の防衛力とその可能性の拡大に期待をかけています。そこには東南アジア諸国との協力における日本独自の役割も含まれています。日本はこれらの国々に沿岸警備隊の技術を供与し、技術者の訓練や養成を行なっています。まもなく、アジア諸国に日本の自衛隊の予備の兵器を譲渡することになるかもしれません。最後に、日本は、米国の緊張を解き、財政支援を行うことができる影響力のある経済プレーヤーでもあるのです」

カシン氏は、だからこそ米国は日本の協力を得て、フィリピンを含むアジア諸国と、容易に協議を行うことができるのだとし、しかも日本はよりデリケートな行動をとることができることから、米国よりも成功を収めることが多いとも述べている。

今回、日本で行われる協議では、合同での兵士の訓練やフィリピン軍の能力向上に向けた支援を含む、安全保障分野での協力強化について意見が交わされるものと思われる。



●洪水被災者へのウクライナの攻撃(2023年6月19日)

ヘルソン州、カホフカのダム破壊による洪水被害に遭った人たちの避難所がウクライナから砲撃を受け、少女が両腕を吹き飛ばされ死亡、3 人の子供の親も死亡、他 17 人が負傷

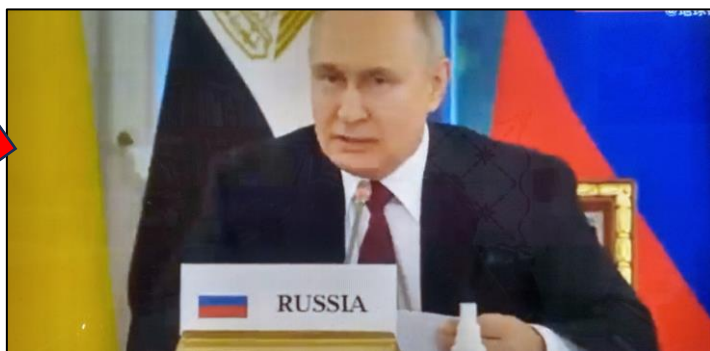
攻撃には西側が宇に提供したストームシャドウが使われた

<https://twitter.com/i/status/1670657040988114945>



●プーチンが秘密を明かす(2023年6月19日)

「ウクライナが中立条約にサインしたからロシア軍がキエフから撤退した。しかし、その後、ウクライナが交渉団トップを暗殺し、条約を破棄したため、戦争が続くことになった」



●「ノーチャンス」 ウクライナ軍が攻勢で「レオパルト」「ブラッドレー」を損失 専門家が解説(2023年6月19日)

ウクライナ軍が西側の新型軍事装備である戦車レオパルトとブラッドレー歩兵戦闘車を失ったのは、ザポロジエ方面への反攻時にウクライナ軍が陥った「ロシアの火袋」によるものだと、ドイツの新聞「ターゲットス・シュピーゲル」が報じた。

「ロシアの火袋」とは何か？

シュピーゲル紙の軍事アナリスト、トーマス・テイナー氏は、ロシアの攻撃ヘリと対戦車砲が、ロシアの防衛線を突破しようとしていたウクライナの装甲車団を巧みに待ち伏せし、破壊するものだと説明した。彼の意見では、ロシア軍の絶え間ない砲撃により、ウクライナ兵は「そこから脱出するチャンスがなかった」という。

テイナー氏は、ロシア軍の対戦車防御は木の陰にうまく隠されており、戦闘用ドローンは空からアクティブに活動していたと述べている。一方、ウクライナの装甲車は防空システムも持たず、大砲による支援もなかった。テイナー氏は、これはウクライナ軍指揮官のプロ意識のなさを示すものであると指摘している。その結果、ウクライナ軍の反攻は行き詰まり、**戦場には攻撃を受けた「レオパルト 2」戦車 3 両と、米国の歩兵戦闘車「ブラッドレー」16 両が焼け焦げた状態で残された。**

ウクライナ軍の守護神はどこで間違ったのか？

ウクライナがこれほど多くの NATO 軍の装甲車を失ったのは、西側諸国がロシア軍の能力を過小評価していたためだと「InfoBRICS」は指摘する。

InfoBRICS は、西側諸国による 2 つの誤算を挙げている。第一に、ロシア軍の戦闘能力に対するウクライナとその同盟国の低い評価、第二に、ウクライナ軍に割り当てられた NATO の訓練と装備に対する、非現実的な期待である。

EU 諸国とウクライナは、ロシアには軍事力がなく、指揮官には複雑な作戦を調整するために必要な通信手段がなく、兵士には訓練と覇気がないと考えていたため、大きな間違いを犯した。こうした西側の誤算が、ウクライナから多くの NATO 製の戦車を奪われるという屈辱的な事態を招いたのである。

スプートニクはこれに先駆け、米国がウクライナへの反転攻勢を開始するために、3 億 2500 万ドルにもものぼる新たな軍事援助パッケージを発表したと伝えた。



●ウクライナ軍、露ベルゴロド州の集合住宅攻撃 子ども含む 7 人負傷(2023年6月19日)

ウクライナと国境を接するロシア南部ベルゴロド州バルイキ市で、ウクライナ軍による住宅に対する攻撃があり、子どもを含む 7 人が負傷した。19 日、同州のビャチエスラフ・グラトコフ知事が明らかにした。

グラトコフ知事は暫定情報として、次のように述べている。

「負傷者のなかには子ども 1 人もいて、鎖骨を骨折した。また、男性 1 人が閉鎖性頭蓋脳挫傷、女性 2 人が破片による裂傷、若い女性 1 人が挫傷を負っている」

5 人は病院に搬送され、中程度のけがと診断された。また、ほかにも 2 人が軽傷を負っている。この攻撃で集合住宅 5 棟、民家 4 棟の窓ガラスや外壁が損傷するなどの被害を受けた。



●イスラエル 退役戦車「メルカバ」をウクライナへ販売検討か = 現地紙(2023年6月19日)

ウクライナとポーランドが、退役したイスラエル軍の戦車「メルカバ」を手にする可能性がある。イスラエルメディア「Walla」が 18 日、伝えている。

15 日、別のイスラエルメディア「Yedioth Ahronoth」はイスラエル国防省高官の話として、

1990年代に製造されすでに退役した「メルカバ」のMk2型、Mk3型あわせて200両を、「欧州の2カ国」に販売する交渉が行われていると伝えていた。同省国防装備輸出部門トップのヤイル・クラス准将はこのことを認め、交渉相手のうち1つは「欧州大陸部にある国」だと明かしていた。

「Walla」はイスラエルが米国からの圧力に屈し、ウクライナやポーランドに旧式戦車を販売することを決めたと指摘している。また、情報筋の話として、「メルカバ」がポーランドの軍事企業によって、イスラエルで改良される可能性もあるという。

一方、米メディア「Axios」は17日、情報筋の話として、イスラエルは人道物資や殺傷能力のない軍事装備のみに限って支援を続けていると伝えている。このことは、先日ベルギーで行われた北大西洋条約機構(NATO)の国防相会合の場で、イスラエルのガラント国防相から米国のオースティン国防長官に伝えられたとみられている。

ウクライナにとっての戦車「メルカバ」

ヘブライ語で「騎馬戦車」を意味するイスラエルの主力戦車「メルカバ」は1979年から製造されている。現在の主力は第4世代の戦車となっており、最新の第5世代型も試験用としてすでに軍に引き渡されている。

露軍事情報ポータル「祖国の武器庫」で論説委員を務めるドミトリー・ドロズデンコ編集長は、出演したスポーツクラジオの番組のなかで、「メルカバ」の使用に関わる問題は、その局地性にあると指摘する。

「戦車『メルカバ』は現存する世界で最も重い戦車の1つだ。固く乾いた土でできた荒野での使用を前提としている。これは中東での軍事行動を念頭にしたイスラエルの発明で、防御も堅い。だが、ウクライナでの使用の観点では、チェルノーゼム(黒土地帯)では乾燥した日でも荒野より土壌が柔らかいことに加え、戦車の重量を考慮すると、移動での困難がつきまとうだろう」



●「米中関係の進展・合意に達した」= 習近平主席、米務長官と会談(2023年6月19日)

中国を訪れている米国のアントニー・ブリンケン務長官は19日、北京の人民大会堂で習近平国家主席と35分間にわたり会談した。中国国営放送「中央電視台」などが伝えている。

「中央電視台」などによると習主席は、ブリンケン務長官の訪中が米中関係の安定化に肯定的に寄与することを願うと表明し、次のように述べた。

「双方は様々な問題に関して進展と合意に達することができた。これは非常にいいことだ」

また、会談では両国の懸案事項となっている台湾情勢をめぐり、ブリンケン国務長官が「米国は台湾の独立性を支持せず、中国との紛争を望んでいない」と述べ、「一つの中国」の原則を遵守する意思を表明した。

ブリンケン国務長官は 18、19 日の日程で中国を訪問している。米国務長官の訪中は 2018 年以降初めてで、現在の米政権中枢で中国を訪れたなかで最も高位にある人物になる。

18 日の秦剛外相との会談は、夕食も交え約 7 時間半にわたって行われ、秦外相の訪米や米中のハイレベル交流の維持などで一致した。また、19 日はこれまでに中国外交トップの王毅・政治局員(中国外事工作委員会弁公室主任)とも会談し、台湾情勢について議論した。

米国務省は、ブリンケン氏が、米中関係を責任をもって管理するためのオープンなコミュニケーションのラインを維持する重要性を議論する、と指摘している。ブリンケン氏は、2018 年以降に中国を訪問した最初の米国務長官であり、現在の米政権中枢で中国を訪れた、最も高位にある人物である。

2 日間の日程を終えて記者会見に臨んだブリンケン国務長官は、米中の貿易関係が史上最高水準の 7000 億ドル規模に達していると強調し、「中国との関係断絶を図るのは米国の利益にならない」と表明。一方で、「1 回の訪問で全ての問題を解決することはできない」と述べ、今回の訪問は今後の米中関係改善に向けた「肯定的な一歩」と評価し、対話継続の重要性を訴えた。



●ロシア軍が鹵獲の仏製戦車 AMX-10RC その特徴は？(2023年6月20日)

ロシア軍はドネツク人民共和国領内での戦いでウクライナ軍から仏製装輪装甲車 AMX-10RC を鹵獲した。ロシア国防省のテレグラム・チャンネルがその映像を公開した。

映像には、ウクライナの隊員が放棄した AMX-10RC と、付近の地面に置き去りにされた AMX-10RC の詳細な取扱説明書が映っている。

軍事専門家のアレクセイ・レオンコフ氏はロシアの Lenta.ru 通信社からの取材に、AMX-10RC 戦車はこれまでの実戦では実績を上げてきたとして、次のように語っている。

「AMX-10RC は軽量の装輪装甲車で、アルミニウム装甲、有人砲塔を持つ。AMX-10RC は、火力支援、突破、軽装甲車の撃破などに使用されてきた。植民地戦争で使用され、良好な成績を収めている」

だが、レオンコフ氏は AMX-10RC はウクライナ紛争ではその有効性を発揮できていないと強調している。一番の長所とされているスピードとマヌーバ性さえも本格的な軍隊に対しては意味をもたない。

「AMX-10RC は反撃の初期のフェーズに参加したが、その性能は発揮できなかった。一部は破壊され、戦利品として鹵獲されたものもある。ロシアにとって興味を惹くのは火器管制システム、照準シ

ステム、通信システムぐらいだろう」

スプートニクはウクライナ軍が戦車レオパルドとブラッドレー歩兵戦闘車を失った理由について、独軍事アナリストらの見解を紹介している。



●【図説】サンクトペテルブルク国際経済フォーラムの成果(2023年6月19日)

サンクトペテルブルク国際経済フォーラム(SPIEF)が 14 日から 17 日の日程で開催された。西側諸国の多くの企業が参加を見送ったものの、SPIEF には世界 130 か国から 1 万 7000 人以上が参加し、多くの合意がなされた。4 日間にわたるフォーラムの成果を、スプートニクがインフォグラフィックでお伝えする。

16 日のフォーラム本会議で行ったプーチン大統領の演説内容については、こちらの記事をご参照ください。

